

一大阪女学院大学「教職課程」産声をあげてから1歳に一

赤ちゃんが生まれて最初に発する泣き声を産声と言う。医学的な説明によると、赤ちゃんが初めて自分の肺で呼吸をする瞬間、それが産声で、自らが呼吸をして生きていくための準備が整った瞬間であるとのこと、新しい環境に適応することができた証である。

昨年1月25日 文部科学省の認可を受け、本学4年制大学の教職課程が産声をあげて1年が経った。開設に当たっては、OJC 教職ミッションを確立するため、本学の教職課程のビジョンについて他学に見られない方略的な実践活動を入念に設計した。学校現場の先生が日々向きあっている課題への一助となる役立つ情報の提供や講習活動を行い、本学の教職課程の「信頼」を築くことをその一番の理念とした。

大阪女学院大学 教職課程・教員養成センターのミッション

「信頼性」

教職課程設置理念
 社会的・人的に肩書獲得の大きい大学と比べて、定員がわずか150人（男女別）の小規模である本学が、大規模・中規模校と並んで教職課程を設置するには教員養成に対する強い意志と高い熱意が必要である。教員養成においては、小規模校の身の幅が広いという長所を最大限に活用し、教職サークル活動、卒業後や教員になってからの英語教科指導法や教材開発の取組活動等を実施することで、教職志望者一人ひとりに教職の責任の重さをしっかりと認識させると同時に学習指導のための実践的かつ次のような豊富な指導法を習得し、小規模校ならではの教員養成課程のモデルを築きあげる。

① 豊かな人間性と社会性を育む教育理念をもとに厳しく鍛えられた英語力を有する本学の学生の中から、未来を担う生徒の教育に貢献する人材を育成する。
 ② 教職課程（教育実習を含む）の学習を通して教育現場や教員の仕事の難しさを知り、生徒及び人間の根源的な理解を深めるばかりでなく、自己理解と自己愛護の場とする。
 ③ 教職に就かなかったとしても、影響を継いで、地域の教育を支える生徒の一人として、学校教育の良き理解者となり、日本の未来をつくる教育を支え光榮させる基盤となるよう養成する。

● 豊かな指導力に裏打ちされた研修を行うこと
 ● 教職課程の修習を、履修を守ること
 ● 履修ある指導に対応を行うこと

● 授業力向上のための研究開発を推進すること
 ● OJCオリジナルで教職工民系活動を行うこと
 ● ニーズに応じた迅速な対応と確信のある動向の発信

校内：授業力を高める教育内容・きめ細やかで工夫のあるサポートの実践

● 教職授業の充実
 ・ 教職の自律を促す教育内容
 ・ 現代の教育目標「教育と人間」を1年次に受講
 ・ これらから教員に必要となる能力を育成する内容
 「英語科指導法Ⅰ」「英語科指導法Ⅱ」による教職法理論の指導と実践的あり方の指導
 ・ 指導力を高めるための具体的な組織を築く実践
 「教育方法の理論と実践」「授業デザインスキルアップ演習」などによる実践的な演習

● 英語力の充実
 ・ 「国際・英語」学部としての英語力の育成
 Grammar, Phonetics, Topic Reading, Theme Studies, Study of Current World Event等
 TOEFL580点、TOEIC730点以上の英語力と教職力の育成

● 介護体験活動
 ・ 「小学校及び中学校の普通免許授与に併せて教育職員免許法の特例規定に関する法律」として定められた介護体験活動(7日間)を実施する

● 学校フィールドワーク活動
 ・ 初等中等教育（幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校、高等学校）の現場に赴き、学習支援、教育支援、文化活動支援、部活動支援などを課外研修ボランティアとして行う。

● OJC 教職サークル活動
 ・ 教職サークル活動を通じて、授業で活用できる教材の収集作成や教育専門書リスト管理を行い、教職課程における授業の支援を行う。
 ・ 「OJC 教職サークルアワード」というポータルサイトを有して、担当者による連絡活動を行う。
 ・ 学外研究会への参加と報告会の実施
 ・ 「英文学研究会」などの勉強会を実施し、幅広い視野を育成する。

● 教員採用試験対策
 ・ 2 年秋学期より、一般教員対策としての国語、数学などの講座を実施する。
 ・ 2 年終了時に教職課程履修要件として学内での資格審査試験を実施する。
 ・ 3 年次より教員採用試験
 ・ 面接指導を行う
 ・ 教員採用試験対策公開模試の実施

● 教職の職業的資質としての「コミュニケーション能力を育成する。
 ・ 教職課程指導力を身に付けさせる。

学外：現場に役立つ教育情報の発信・現場教員との協働活動の実践

● OJC 教員養成センターHPの充実
 ・ 英語教育情報ウェブサイト（毎月更新）
 ・ 教育ニュース発信（随時更新）
 ・ 英語教育参考書籍紹介（随時更新）
 ・ 授業の一手帳・実践指導事例紹介（毎月更新）
 ・ 自作リスニング・リーディング教材

● OJCTN: OJC 教職ネットワーク
 Osaka Jogakuen College Teachers' Network
 ・ 現場の学校教員との協働研究開発を通して、授業力の向上をめざし教材研究資料、授業案、教材作成、役立つサイト情報収集活動を行う。
 ・ 教材開発や指導法の研究に努め、学校現場に提供する。

● 教員養成センターNewsletter 発行
 ・ 現場教員の声を掲載した特長記事を編集することにより、教員の関心を高めると同時に教員のやる気を高める。現場に役立つ記事の発信により、本学の教職課程で教職への取り組みを評価してもらう。
 ・ 本学関係の研修・講座などの紹介を行い、本学の取り組みの理解を得る。
 ・ 年4回（4/7/10/1月）発行

● MLによる情報配信
 ・ OJC 教員養成センター掲載の教育関係ニュースや教材紹介、勉強会での実践事例などを配信する。
 ・ 現場の教員の教科指導法や教育課題の声を聞き取る。

● 実践報告書の発行
 ・ 勉強会や授業開発の報告書(50ページ)を毎年まとめる。現場へ配付する。
 ・ 現場教員の日々の授業を取り上げ、共有しやすい内容とする。実際に役に立つ報告書編纂を心がける。

● 教員研修・講座の実施
 「現場研修」をコアとして実施する。
 ・ 夏季集中講座として、現場教員向けの講座を開講する。本学教職課程履修生も受講させ、協働の学びの場を創る。
 ・ 「教員生活私生活講座」と併せて実施する。
 ・ 教員養成センター担当以外の本学教員や外部教員にも講座を企画していく。

● 勉強会の実施
 ・ 毎月第二土曜日に「教員研究会」を開催予定し、履修教員や本学教職課程履修生で、効果的な指導法について発表や討論、輪読会を行う。
 ・ 発表事例は整理してまとめた、実践報告書に掲載する。

● 履修教員とのコミュニケーション
 ・ オンラインで、履修教員と
 ・ 立つ双方向関係、授業研究・指導法研究を行う！

2010年度、そのビジョンの実践として様々なことを試みてきた。教員養成センター Newsletter を創刊号〜第4号まで発行。開設記念研修や教員免許状更新講習の実施。学校現場の視点に立った英語教育の課題を現場の先生を交えて話し合う勉強会を7回開催。本学教員養成センターのHP (<http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>) による英語教育情報提供の充実。センター担当教員による教職課程履修生学生向けの勉強会として週1回〜2回の教職サークル等を行ってきた。

さて、今の日本には、「内向き志向」「ことばの力の低下」「もの豊かさ心の貧困」「所得格差と教育格差」「学級崩壊」「家庭教育の課題」など、様々な教育課題が山積している。規則を守る意識が薄れ、学ぶ意欲も低下しているように思われる。また、自信を喪失し明確な将来の夢や目標を描けない若者が次第に増えている。この「崖っぷちの日本」を何とかしなければならない。子ども一人一人の自己実現、夢と幸福の追求には、親子のふれあい、友達との遊び、地域の人々との交流が必要である。そしてその根本として教育の力が欠かせない。

満一歳になった教員養成センターは、赤ちゃんのこの世に生まれた純粋な微笑みを忘れずに、こうした現代社会の諸相を踏まえ、学校現場の先生が求める英語指導のあり方を基底に、一層「信頼」される教育活動を展開し、活力ある教員を生み出すためにさらに努力を重ねていきたい。大阪女学院大学 教職課程機関誌『教職活動報告・研究』は、その意思をまとめたものであり、今後、この機関誌を学校現場の皆様とともに協力して作り上げさらに充実させていきたいと考えている。

教員養成センター長 中井弘一